

特別支援学校への視察結果とユニバーサルデザインガイドライン素案への反映状況一覧

【視察内容】子どもたちの特性に応じた学校での取り組みや配慮など

No.	掲載場所	頁	視察内容	ガイドラインへの反映
1	基本的な考え方	10	新築の校舎というだけで子どもたちは落ち着く。きれいであることの影響は大きい。廊下に物を置かないだけでも、子どもたちを落ち着かせることができる。	・「作成する前に確認すること」の「基本的な考え方」の項目に、「快適に感じられる」を記載した。
2	サインの伝達方法を選択する	21	デジタルサイネージは、子どもたちの多様性を取り入れ、バリエーションのある情報提供ができたり、時代のニーズに合わせ、更新しやすいかたりするので、取り入れていったほうがよい。また、聴覚障がい者に対する点滅ランプなどによる情報提供は必要である。	・「サインの伝達方法を選択する」の項目に、デジタルサイネージについて記載した。
3	事例集	—	各教室には、建築当初から、絵文字を併用した突出看板にしている。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
4	事例集	—	教室内に掲出している子どもたちの授業や作業班などのグループ分けなどを、表や色を使って示している。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
5	事例集	—	障がいのある子どもたちでも理解しやすいように、一日のスケジュールを、絵文字やふりがな付きの平易な言葉で示している。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
6	事例集	—	教室の掲示板では、「〇〇だより」と大きめな文字でタイトルを掲示し、その下に関連するお知らせを整理して貼り出し、わかりやすくしている。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
7	事例集	—	脱いだ靴の整理ができるよう、更衣室の床に足跡を表示している。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
8	事例集	—	各班がどの場所を使用するかを一目でわかるように、調理室台に班の番号を表示している。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。

No.	掲載場所	頁	視察内容	ガイドラインへの反映
9	事例集	—	雑巾と間違えることのないように、ふきんには「しよっきようふきん」と書いている。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
10	事例集	—	学年カラーに合わせて階段を色付けすることで、主にその階段を使用する学年がわかるようにしている。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
11	事例集	—	校内に複数ある階段に、それぞれアルファベットを付けることで、個々の階段だとわかるようにしている。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
12	事例集	—	ゴミ箱・ゴミ置き場にて、可燃ごみを赤、不燃ごみを青で表している。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
13	事例集	—	作業工程を模式図（チャート）化し、部屋の掲示板に張り出すことで、障がいのある子どもでも作業の流れがわかりやすいようにしている。また、保護者が来校された際にも、子どもたちの作業工程がわかりやすくなる効果がある。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
14	事例集	—	校内案内として、ロビーなどに臨時設置する矢印の看板を用意することで、授業参観などの来客時に、スムーズに会場が伝わるように工夫している。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
15	事例集	—	昇降口にて、スムーズに検温が行えるように、体温測定モニタの前に立ち位置を示すマークを表示している。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
16	事例集	—	校内の動線において、子どもたちが立ち止まる場所に、子どもたちが作ったコロナ対策等のメッセージ入りのポスターを掲出し、啓発を行っている。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。
17	事例集	—	傘立てや荷物を置く場所に記名し、子どもたちが物をしまう場所を指定することで、障がいのある子どもでも、物をしまいやすくしている。	・事例集を作成する段階で、掲載を検討する。